

# 令和6年度 地域振興事業

事業名	事業概略
選ばれるみなまた推進事業 (インバウンド等強化事業)	インバウンド(特に台湾)の客をターゲットとした観光スポットの打ち出しや旅行商品の造成等に取り組むことで、観光客の滞在時間や消費の増加を促す。 ①インバウンド向け商品造成 ②台湾メディアを活用したプロモーション ③台湾旅行会社等への営業活動 など
ドラゴンボートによる地域振興事業	水俣市の「競り舟」のルーツとされ、世界的に人気のある中国の「ドラゴンボート」を新たに導入する。 「ドラゴンボート」と「競り舟」を組み合わせた競技大会やイベントを開催することで、「競り舟」の認知度向上や競技人口の増加、市外の競技者等の集客を図る。
History of 湯の児・湯の鶴温泉	湯の児・湯の鶴両温泉地は非常に長い歴史を持っており、湯の児温泉は令和7年度(2025年度)に開湯100周年を迎える。そこで、今後もこの歴史を紡ぎ、水俣市の観光の柱として存続させるべく①フォトコンテスト2024の開催②湯の児・湯の鶴温泉調査及びフリーペーパーの作成③湯の児一御所浦回遊プランの造成及びモニターツアー実施④国民保養温泉地・100周年記念タオル制作⑤タツノオトシゴピンバッチの作成を行う。
みなまた茶プロモーション強化支援事業	全国的な茶の需要低下に伴い価格が低迷している水俣・芦北地域の茶において、バイオマスレジンを使用した新商品等の開発や水俣出身の漫画家江口寿史氏によるみなまた茶イメージイラストの作成、熊本空港でのPR等を実施することで、全国的な知名度の向上及び販売促進を目指す。
ハゼ産地の再生と基盤強化による地域振興	R6年度は、未経験者や若手農業者等のハゼ栽培への新規参入を促すため、ハゼ栽培研修やハゼの生産・育成・管理マニュアル及び動画マニュアルの制作を行う。また、幅が狭い作業道でも使用可能で、竹林の整備においても活用できる樹木粉碎機を購入し、荒廃地の整備とハゼの植林を更に進めていく。 なお、令和5年度に引き続き含蠟率の高い優良品種を植林し生産量増と品質の向上を図るとともに、併せてイベントを開催し水俣市が全国有数のハゼ産地であることを市内外に向けて情報発信し認知度向上させる。
水俣と周辺地域(津奈木、出水、芦北含む)を紹介する写文集と展示企画	水俣・芦北地域と不知火海の魅力を広く伝える写文集を制作。水俣市内の地域住民が運営するギャラリーで写文集の内容を紹介する展示を開く。また、熊本市や福岡でも写文集の配布や設置を行い、地域内の交流や観光客・移住者の増加を図る。
岬から始まるオリーブの里づくり事業	農家の高齢化等により、耕作面積や農業生産量の減少、耕作放棄地の増加が課題となっている。そこで、芦北町の新たな特産品として期待されるオリーブの試験栽培や加工品開発に取り組む。 令和6年度は、芦北町に適したオリーブ品種の見極めを行うとともに、加工品の試作、観光農園に向けた環境整備等に取り組む。

赤松館を活用した文化継承・青少年育成、100年カレー復活事業

国登録有形文化財「赤松館」の一般公開を再開し、その収益により補修することで、地域文化の継承につなげる。また、伝統的な建築技術に触れる場を提供することで人材育成の場とする。さらに、赤松館に伝わる「100年カレー」の復活や、一部をテナント貸しする「チャレンジショップ」により、若手料理人の独立の後押しや赤松館への人流を作る。

生命食いただきアース(地域環境を考慮した農業及び地域振興事業)

芦北町では人口減少と高齢化による耕作放棄地の増加等が大きな課題となっており、農業振興と地域活性化が求められている。そこで、栽培試験に必要な土壌分析や資材を導入し健康増進効果が期待されるオーガニック栽培のベースを作るための実験的栽培を行いながら、セミナーや収穫体験等を通してオーガニック栽培を地域に広げ、農業振興に繋げていく。

御立岬周辺施設を活用した交流人口創出事業

芦北町御立岬エリアは屋外常設サウナがあるキャンプ場や宿泊施設、温泉施設等交流人口拡大に向けたイベント開催のポテンシャルがあるが、全国的には知名度が不足している状況である。そこで、御立岬海水浴場を中心とした各エリアで、食・音楽・焚火・キャンプ・サウナを楽しむイベントを開催し、芦北町の知名度向上と交流人口・関係人口増を図る。

住民参画型アートプロジェクト  
小田原のどかつなぎプロジェクト

2008年から続く住民参加型アートプロジェクトの一環として、彫刻家・彫刻研究者の小田原のどか氏を招聘し、公共空間における彫刻やモニュメントと地元の行事などとの関わりについて住民とともに考察する。また、その結果を踏まえ、展示作品を制作するとともに、成果展を開催する。

櫓製作技術と櫓による操船技術の伝承

体験学習プログラムで提供している伝馬舟櫓漕ぎ体験の充実・推進と櫓漕ぎの文化の継承・保全をはかるために以下の事業を行う。  
①伝馬舟櫓漕ぎ体験に使用する櫓製作技術を伝承するための船大工による講習会  
②櫓による操船技術を伝承するための講習会

恐竜の島×地元コラボ：天草・御所浦新商品開発プロジェクト

「御所浦恐竜の島博物館」のリニューアルにより、多くの観光客の来訪が見込まれる。このチャンスを活かすため、地元事業者と協力し、地域の文化や自然史を反映したオリジナル商品を開発する。また、ウェブサイトやSNSで情報発信等を行うことで、開発した商品の認知度向上を図る。